

課題をプラスに転換

町民の評価点が最も低かったのは、「農産物の販売体制」と「学童保育の交流」の2項目で、いずれも30点と厳しく採点されました。

問題点として、水前寺菜「御船川」のブランド化を図っている反面で、地元消費に結びついていないことなどを指摘し、啓発活動や町内での販路拡大が必要と訴えました。

また、高齢者の生きがいや子どもの心育成につながる双方のふれあい、町独自に計画がないことを取りあげ、町や学校行事でのふれあい企画などを提案しました。

逆に、町民から高い評価点だった項目は「情報公開」の69点で、ミニ集会や子育て懇談会の開催により対話が図られていることや、町長が意見を聞いて率先して実行していることなどが高く評価されました。

結果として、全体的には厳しい評価内容となりましたが、今回の課題をどのように解決し、プラスへと転換する過程こそが重要と考えられます。

町民の新たなまちづくり

大会のなかで、山本町長が課題にあげた「御船町協働まちづくり条例（仮称）」の制定について疑問に思った方も多くと考えますので、簡単に説明します。

協働まちづくり条例とは、まちづくりの主役は町民であるという考え方が基本です。町の重要な政策などを決める際には、必ず町民の意見や提案を伺うことを制度化したもので、町民が町づくりに参加するための手続きを定めたルールです。

町民活動の活性化こそ、新たな町への一歩と言えます。

アンケート結果公表

「第2回マニフェストまちづくり大会」の参加者を対象に行ったアンケート結果（124人提出）で、町民が評価・検証したマニフェスト10項目で、「評価できた内容」と「評価できなかった内容」を紹介します。

評価できたベスト3

- 1位 町民に町が持つ情報をすべて公開し、各種組織や団体、地域との対話を行って、情報を共有する。（65.3％）
- 2位 町総合計画や各種計画、予算案の策定段階から公表し、町民の意見を町政へ反映させる。（38.7％）
- 3位 町長への提案や陳情、要望は、必ず文書で回答し、約束を守る。（25.8％）

評価できた理由（10項目抜粋）

▷情報をすべて公開？に疑問はあるが、方向性を評価。▷まちづくり計画書で予算の使い道がわかった。▷当然。▷町民パワーの財政への反映。▷町民一体の町づくり。▷高齢者に分かり易い。▷町民が参加できる場があり、意見を聞いてもらえる。▷水前寺菜をきっかけに農業の活性化。

評価できないベスト3

- 1位 地元産作物（米、野菜）を学校給食への利用支援を図る。（28.2％）
- 2位 子どもたちの問題点（いじめ、キレル）と、活字や読書離れの解決方法を教育委員会と協力して整える。（25.0％）
- 3位 七滝中央小学校の特色ある教育環境を確立する。（22.6％）

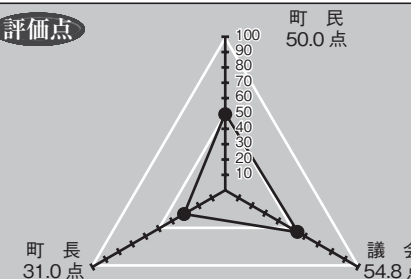
評価できない理由（10項目抜粋）

▷町民の意見が反映された予算なのかが疑問。▷評価が甘い。論理的、実証的ではない。▷職員と町民が接している感じが薄いように感じる。▷PRが少ない。▷町民の関心が低いような感じがする。▷道の駅末設置。▷公平性がない。▷町民の関心が低いような感じがする。▷10、20年後のビジョンが見えない。不安がある。



約束7を評価・検証

テーマ 通学路の安全と犯罪のない明るい町をつくるため防犯パトロールの強化や防犯灯の整備を進める。



評価 各小学校区の防犯ネットワークや中学校のおやじの会、町公用車でのパトロールによる防犯体制が強化されている。防犯灯の整備が、コミュニティ事業を活用し設置されている。

問題 アンケートの結果で、防犯灯不足34％、歩道設置32％と安全確保が重要である。防犯灯の設置や維持管理を区で実施することへの周知不足。

提案 町民有志による「スクール見守り隊」を結成する。外灯の新設は、コミュニティ事業の積極的な活用を図り、区の財政負担を軽減する。

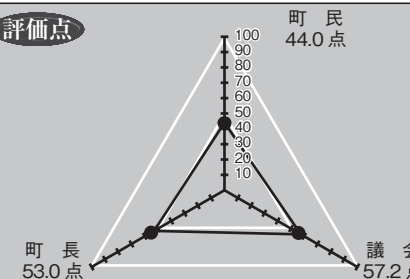
議会の評価

▷地域や行政のパトロールで、不審者の話が無くなり効果があったと思う。▷防犯灯は町中以外でも整備されていると思う。



約束3を評価・検証

テーマ 七滝中央小学校の特色ある教育環境を確立する。



評価 保育園や小学校の年間行事に、お年寄りとの、ふれあい交流や伝承遊びが開催されている。放課後児童クラブが5つの小学校で実施されている。

問題 ふれあい行事は、町独自の計画や実施状況が確認できないうえ、学校側（教職員）の負担となっている。放課後児童クラブが、児童の数に対して部屋が狭く活動が制限される。

提案 学校の空き教室を地域に開放して、気軽に立ち寄れる「村の駅（仮称）」とする。学校内に地域の老人会や各種団体の事務局をおく。

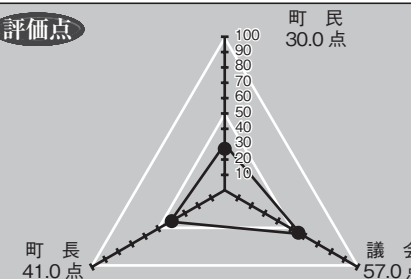
議会の評価

▷国（文部科学省など）の垣根を取り払った取り組みが必要である。▷学童保育に限定せず、子育てや教育にも当てはめる。



約束3を評価・検証

テーマ 学童保育に、地域のお年寄りにも参加いただき、ふれあいや文化の伝承を行う。



評価 保育園や小学校の年間行事に、お年寄りとの、ふれあい交流や伝承遊びが開催されている。放課後児童クラブが5つの小学校で実施されている。

問題 ふれあい行事は、町独自の計画や実施状況が確認できないうえ、学校側（教職員）の負担となっている。放課後児童クラブが、児童の数に対して部屋が狭く活動が制限される。

提案 学校の空き教室を地域に開放して、気軽に立ち寄れる「村の駅（仮称）」とする。学校内に地域の老人会や各種団体の事務局をおく。

議会の評価

▷国（文部科学省など）の垣根を取り払った取り組みが必要である。▷学童保育に限定せず、子育てや教育にも当てはめる。



神吉 信之
アドバイザー

対話や討議型重視の民主主義へ

行政が行う公共活動に住民が参加する受身的な関係でしたが、今後は「共働」「参画」「そして「自治」への展開が必要です。これからの自治体運営は、テーマごとに活動しているNPOなどの住民団体と各地域のコミュニティ組織が行政と協力や補完し合い、公共サービスの主要な担い手としての成長が望まれます。今回、町の公募による町民有志での検証作業でしたが、次回は町民が自発的に町政に参画する機会として、マニフェストの検証作業を行うことを願います。



山本 孝二
御船町長

今大会が実行委員会（田中外至会長）主催で開催され、参加者多数のなか無事に終了し、行政、議会、町民の3者が目標意識の基礎ができた意義は大きいと言えます。また、町民と議会が検証に関わったことは、住民主体のまちづくりをさらに前進できたと関係者に敬意を表します。

町民主体のまちづくりへ大きく前進

就任から2年間で、新規事業の検証結果が30％の達成は理想的な結果であり、それ以上の評価は関係者の頑張りの結果と高く評価しています。私が目指す「マニフェストサイクル」では、①目標設定②計画策定③計画実行④結果公表をすべての町民に示します。その結果を次の目標へと生かすことこそが「最小の経費で最大の効果を出す」住民サービスの最高手段であると同時に、現代の町民ニーズに対応できる方法だと確信しています。